

上越市立稲田小学校



稲田小だより

令和6年度 No. 1

令和6年4月号

よろしくお祈いします

校長 遠藤 和英

新学期の期待に胸をふくらませて登校した子どもたちを、校庭の満開の桜が迎えてくれました。今年の稲田小学校は41名の新入生を迎え、全校293名でのスタートです。静かだった校内に響く子どもたちのあいさつの声や明るい表情に、それぞれ1学年進級した喜びとやる気を感じます。新しい学年を迎えるこの時期の子どもたちは、「もっとできるようになりたい」「もっと分かるようになりたい」と希望にあふれています。その前向きな気持ちを大切にしながら教育活動を進めてまいります。

「ひとの役に立てる子」が稲田小学校の教育目標です。これは、「ひとの役に立つことを増やすことが、世の中をよくする」という玄関脇の教育碑に書かれていることに由来したものです。人間は、自分の成長が自分自身で実感できると、自分に自信がつき、自分も周りの人も大切にできるようになっていきます。しかし、実際には成長というものには明確な形があるわけではないので、自分自身では気付かないことも多いです。また、子どもにとっては、どんなことを努力すると自分の成長につながるのかも、なかなか明確ではありません。

対して「ひとの役に立つ」ということは、友達、家族や地域の方のために具体的な行動をとることが求められます。そして、実際に相手の役に立てたときには、「ありがとう」と感謝の言葉をもらえます。周りから感謝されるということは、本人にとって分かりやすく、多くの人から感謝されると、そのことが必ず本人の自信につながっていきます。自信を得た子どもは、きっと自分も周りの人も大切にすることができるようになるはずです。加えて、人間は自分のためには我慢できないことでも、他の人のためなら頑張れることがあります。子どもたちが誰かを喜ばせるために歯を食いしばって努力し、自分の力を大きく伸ばしてくれるのではないかと期待しています。

◎重点キーワード：広げよう つながろう！

目標実現の第一歩として子どもたちに大切にしてほしいことは、自分の周りにいる人たちに気付き、人間関係を広げていくことです。まず、一緒に過ごしている仲間や家族、地域の方に対して、何気なく過ごすのではなく、敏感になり、相手をよく知り、相手のために自分は何ができるのか考え、具体的にアクションを起こしてつながっていくことです。このキーワードを子どもも職員も大切にしながら、1年間の教育活動を行っていきます。

それにしてもまだ4月。どの子も1学年進級したことはもちろん、クラス替えのあった学級、新しい担任に変わった学級など、学校の中での環境、求められる役割が変わりました。特に、毎日歩いて登下校して授業を受けることなど、一番大きく環境が変わった新1年生にとっては、慣れるだけで精一杯のことでしょう。体調を崩すことのないよう、毎日、元気で登校できるよう、お子さんの体調管理をどうぞよろしくお願いいたします。

また、この4月、稲田小も多くの転入職員を迎えました。きっと学校の中に、新しい爽やかな風を吹かせてくれるものと期待しています。転入してきた職員はもちろん、新年度を迎え全職員が張り切って教育活動を行っています。職員一同、気持ちを一つにしながら、それぞれの特徴を生かして子どもたちの指導にあたっていきます。

1年間、どうぞよろしくお願いいたします。